

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明		自己評価	行政評価
1 芸術文化に触れる機会の提供(自主事業)(使命2)	同時代の多岐にわたる表現を多角的に紹介	□①新・今日の作家展 実施回数	1回	1回	「新・今日の作家展2022 世界をとりとめる」(9/17～10/10)。詩人の大崎清夏、画家の小林達也、古山結の3名が出品し、31件39点(9/19イベントで新規制作した作品1件5点を含む)の作品を展示。		【成果】 「新・今日の作家展2022」では、同シリーズの長い歴史において初となる詩人の大崎清夏が出品し、SNS等を見ても現代詩に興味がある層が来館するなど、同展全体に新しい風を吹き込むことができました。展示並びに関連イベントはいずれも魅力的な内容となりました。 【課題】 「新・今日の作家展2022」は数年来のテーマの傾向と一新したため、現代美術ファン層に情報が届かなかった側面があると推測され、入場者数がやや伸び悩みました。記録集は印刷予算の確保が難しく、Web公開としました。本形で残ることは図書館に入る等長期アーカイブの利点があり、Web公開では広く届くことから、両者の実施が本来は望ましいと考えられます。 ※9/19イベントは記録動画を撮影し、2023年2月に公開。動画再生件数88回(※3/23時点)	【評価できる点】 ・「新・今日の作家展」は、初めて現代詩をテーマとし、入場者数が伸び悩んだ一面はあるものの、新たな層の来館に繋がりました。 ・企画講座についても、近隣を拠点として活動するアーティストの活用やコレクション作品を利用したレクチャーなどの新しい企画講座を実施し、新たな参加者申込みに繋がったことを評価します。 ・「収蔵作品検索ページ」における新規サムネイル公開が今年度は500件を超え、公開中図版を合わせると計900点となり、視覚に分かりやすく収蔵作品の魅力を伝えることに繋がりました。 ・目標金額を超えるクラウドファンディングでの作品修復事業により、修復した2作品をコレクション展で披露することができ、収蔵作品の周知にも繋がることができました。 ・コレクション展では、横浜の風景を中心とした親しみやすいテーマ設定で地元作家の特集やコレクションの修復作品をお披露目し、R5年度の来館者数達成指標の4,000人を超える4842人の来場者に繋がる成果を挙げました。 ・「横浜市こどもの美術館」は、コロナ感染症拡大防止の観点から団体応募を見合わせて規模を縮小しての開催となりましたが、こどものためのコレクション展の初開催や市役所で、ビジョン上映するなど、子どもが多様な体験を得られる機会の提供を行いました。 ・昨年に引き続き、近隣幼稚園保護者へ施設概要レクチャーと鑑賞機会の提供をするなど地域との連携構築や基盤整備に努めた点を評価します。
		□②アーティスト・インタビュー、アーカイブ 実施人数	1名	3名	インタビュー動画再生件数：大崎氏325回、小林氏179回、古山氏206回(※3/23時点)			
		□③トークイベント、ワークショップ 実施回数	2回	3回	①9/19 仕草のドローイング「動きのなかにあることば」古山結×小山衣美(ダンサー) ②9/24 対談「私たちは、星だろう」小林達也×田中龍也(群馬県立近代美術館学芸員) ③9/25 対談「生き延びるための遊び」大崎清夏×永井玲衣(哲学研究者) ※9/19イベントは記録動画を撮影し、2023年2月に公開。動画再生件数88回(※3/23時点)			
		□④入場者数	4,000名	3,836名				
		■⑤出品作家の継続的な広報支援	随時	実施				
		□⑥記録集の作成 実施回数	1回	1回	冊子発行の予算が確保できず、Web公開とした。			
		□⑦顧客満足度	4.0以上	4.7				
	2 芸術文化に親しみ、集い、様々な背景を持つ人との交流を促す	□①大人のためのアトリエ講座 講座数	10回	11回				
		□②つくって学ぶ 実施回数	8回	8回	①4/15、22、29、5/6「着衣クロッキーAコース」 ②5/14「着物をほどく」 ③5/27、6/3、10、17「人体を描く〜ヌードと着衣〜」 ④6/2、9、16、23「着衣クロッキーBコース」 ⑤9/3、10「はじめての日本画 絹に描く〜若冲の彩色に学ぶ〜」 ⑥11/17、24、12/1、8「和の装いを描く」 ⑦12/3、10「はじめての日本画 絹に描く」 ⑧1/19、26、2/2、9「着衣クロッキーCコース」			
		□③きいて学ぶ 実施回数	2回	3回	①-1:11/15、27「横浜市民ギャラリー+横浜能楽堂連携企画 「着物をほどく」と横浜能楽堂見学」 ②-2:12/15、17「横浜市民ギャラリー+横浜能楽堂連携企画 「袱紗を縫う」と横浜能楽堂見学」 ③-3:1/15「レクチャー 美術品の保存と修復 ―大切な絵画作品を後世に残すための取り組み―」			
		□④コレクション活用講座 企画(②または③の内数)	実施	実施	1/15「レクチャー 美術品の保存と修復 ―大切な絵画作品を後世に残すための取り組み―」			
		□参加者数	200名	235名				
		□顧客満足度	4.0以上	4.8				
		3 多様な価値観を受け入れ、互いを尊重し合う文化の醸成に貢献	■①横浜・紅葉ヶ丘まいらん	通年	通年	近隣施設と定期的な会議を開催し、連携したイベントを開催しました。		
■②アートなお散歩支援事業 関係づくり検討	実施		実施	近隣の幼稚園・保育園との交流を持ち、来館に繋がりました。				
■③黄金町、若葉町との緩やかな連携	実施		実施	近隣施設と定期的な会議を開催し、成果展示に参加しました。				
					【成果】 第4期指定管理期間においては、各種施設や団体との「連携事業」への注力を重視しており、その初年度に当たっては、意識的に当館が繋がりを求めている事をアプローチし、基盤整備に努めました。「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」については、単にイベントを開催する事ではなく当該地域の施設が常態的に連携を図る仕組みの提案を行いました。また、近隣幼稚園の母親を対象とした「施設概要とコレクション」に関するレクチャーと鑑賞機会の提供を実現し、今後に向けた連携の継続を促しました。 【課題】 連携を軸とした展開においては、相手方との理解度の共有が重要になるため、当館の考え方を丁寧に説明し、方向性の齟齬が生じないように進める必要があるため、事業の始			

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

		■④地域で開催されるイベントへの協力	実施	実施	前年度はコロナ禍でオンライン開催だったイベントが現地開催として再開され、参加しました。	動から時間を要するため、一朝一夕には成果が見えない事が挙げられます。
2 収蔵作品の管理・保管、及び活用(使命3)	1 豊かな収蔵作品の魅力を伝える	□①コレクション展 実施回数	1回	1回	「横浜市民ギャラリーコレクション展2023 描きたい風景」(2023/2/24～3/12)。絵画、版画作品53点を展示しました。	【成果】 多角的な視点で気軽に風景画を楽しめる展覧会とすることができました。地元作家・宮本昌雄の特集展示はまとまった点数の展示により作品の魅力がより一層発揮され、来場者から大きな反響をいただきました。コレクションの多様な魅力を親しみやすい視点で伝え、またクラウドファンディングによる作品修復事業との連動により、多くの方に当館コレクションの重要性を認識していただける機会となったことが、来場者アンケート等から感じられました。鑑賞サポーター活動では、来場者と双方向のコミュニケーションができるイベントを新たに企画し、サポーターと協働して実施しました。 【課題】 子どもを対象とする関連イベントや地域連携事業などにより来場者の幅が広がる成果が出ている一方、中心的な来場者の年齢層は高く、キャプションや作品解説をはじめ、見る人にやさしい情報掲出が求められています。
		□②入場者数	4,000名	4,842	「クラウドファンディングによる収蔵作品修復事業」との連動、横浜・紅葉ヶ丘まいらん連携イベント、アートなお散歩支援事業などが来館者増に繋がりました。	
		□③顧客満足度	4.0以上	4.6	アンケート回答数344件と大きな反響がありました。	
		□④収蔵作家・関係者インタビュー、アーカイブ 実施人数	1名	1名	相笠昌義氏インタビュー実施。	
		□⑤コレクション展に関連するイベント 実施回数	2回	4回	2/26、3/4「おしゃべりステーション@コレクション展」 3/4「学芸員によるギャラリートーク」 3/5 ハマキッズ・アートクラブ「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」	
		□⑥鑑賞サポーター活動	1回	1回	中学生以上対象、参加9名。	
	2 幅広い年代の方々に、収蔵作品の魅力を伝える	□①コレクション活用講座 企画 ※1-2-④に記載	—	—		【成果】 「収蔵作品検索ページ」における新規サムネイル公開が今年度500件超、「今月の1点」での図版掲載を合わせ公開中国版は約900点となり、収蔵作品の魅力を伝えるにあたり大きな成果となりました。本業務には学生インターンの参画が大きく寄与しました。 【課題】 サムネイル公開に必要な画像調整作業は、学生インターンの参加数や個々の資質等に負うところが大き、各年度における不確定要素となっています。
		□②こどものためのコレクション展 実施回数	1回	1回	「横浜子ども美術展2022」関連事業として、「こどものためのコレクション展『みてみよう！ふしぎなせかい』」(7/22～31)実施。	
		■ホームページ、情報誌を通じた作品紹介	実施	実施		
		□③(1)ホームページ「収蔵作品検索ページ」「今月の1点」公開件数	6件	7件	「今月の1点」公開日が月をまたぎ前後することがあり、7件となりました。 収蔵作品検索ページの新規サムネイル公開件数も参考のため付しました。	
		□③(2)『横浜画廊散歩』『アートヨコハマ』での作品・作家紹介 件数	10件	10件	『横浜画廊散歩』が6月より隔月発行になったため、同誌7件+『アートヨコハマ』3件	
	3 収蔵作品を計画的かつ適切に管理・保存し、次世代に継承	収蔵庫環境管理および収蔵作品の管理・修復・貸出の適切な実施 ■①IPMを取り入れた収蔵庫の環境管理 実施回数	隔月 週1回	隔週 月1回	IPMを取入れ、偶数月に館内の自主点検、原則毎週収蔵庫内の清掃を実施しました。また、今年度より毎月共同事業体間で環境会議を実施し、課題の共有をはかりました。	(3-③収蔵作品の修復) 【成果】 専門家が当館でおこなう修復において市民Gスタッフも一部参画することで費用を下げ、保護板の購入や新規マットの作成の点数を増やすことで、修復に付随する作品保全をより充実させることができました。 【課題】 自前クリーニングの実施可否や件数は毎年の職員体制や個々のスキルによります。 (3-④クラウドファンディングを用いた作品修復) 【成果】 目標の140万円を大きく超える171万円の支援をいただきました(財団への直接寄附を含む)。プロジェクト前後ともメディアの取材も入り、収蔵作品の周知に繋がりました。 【課題】 実施の準備、実施中の広報、実施後もイベント実施やギフト・報告書・報告動画の制作業務があり、年間を通じて業務量が過大でした。
		■②収蔵作品の調査研究、データ類の管理	随時	実施	インターン生も参画し、収蔵作品データの最新化や写真データの調整、関連資料のデータ化等をおこないました。	
		■③収蔵作品の修復	実施	実施	委託修復4件(うち3点は部分的に市民Gスタッフがクリーニング)、自前クリーニング13件実施。別途クラウドファンディング対象作品2点も修復。	
		■④クラウドファンディングを用いた作品修復	実施	実施	目標140万円に対し171万円を獲得(READYFOR153万5千円、財団直接寄附17万5千円)。支援件数は75件。	
		■⑤収蔵作品の貸出、問い合わせ等対応	随時	実施	次年度以降開催の展覧会への出品相談等を受けました。収蔵作品以外にも開催展覧会・作家の問合せ等複数あり。	

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明
1	子どもたちが表現活動に取り組み、芸術文化に身近に触れる機会の提供	□①横浜市こどもの美術展 実施回数	1回	1回	「横浜市こどもの美術展2022」(2022/7/22～31)
		□入場者数	15,000名	3,705	感染症対策として、作品応募は個人のみを対象としました(目標は通常時)。
		□出品数	2,300点	347	同上
		□顧客満足度	4.0以上	4.9	
		□②(1)こどものためのコレクション展 実施回数 ※2-2-②に記載	—	—	こどものためのコレクション展「みてみよう! ふしぎなせかい」実施。
		□②(2)自由参加ワークショップ 実施回数	1回	1回	「紙でたてよう! なんでもタテモノ」実施。
		■②(3)夏のこども音楽会実施検討	実施	非開催	感染症対策のため、非開催としました。
		□③ハマキッズ・アートクラブ 講座数	10回	10回	
		□参加者数	200名	156名	感染症対策として例年の6割程度に定員を減らして開催。
		□顧客満足度	4.0以上	4.9	子どもたちが思う存分楽しく制作に関わる様子に、保護者からの高い評価が得られました。リピーター多数。
3	子どもたちをはじめとする次世代育成(使命4)	□③横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー 実施回数	1回	1回	幅広い体験ができるよう、探検ツアーに加えミニワークショップもおこないました。
		□④横浜市芸術文化教育プログラム推進事業 学校プログラム コーディネート校数	3校	3校	積極的に協力し、3校全9回実施しました。
2	若手芸術家による作品発表の支援	■①U35若手芸術家支援事業の実施	随時	1件	今年度は、1件の新進アーティストとの共催を実施しました。 横浜市民ギャラリーU35若手芸術家支援事業 高野ユリカ個展「REGARDING THE ECHO OF OTHERS」 主催: 高野ユリカ 会期: 令和5年4月6日～16日
3	あらゆる人の参画、学び、交流の場の創出	■①大学生・大学院生インターンの受入れ	実施	実施	①「子ども向け事業企画・運営事業」、②「コレクション管理補助業務」、③「展覧会データベース構築補助業務」の3活動で募集をおこない、10名の応募がありました。7名採用(内、1名面接後に辞退)。6名が最終まで活動をおこないました。
		□②ボランティア活動 実施回数(コレクション展鑑賞サポーター等)	2回	2回	①「横浜市こどもの美術展」自由参加ワークショップ運営、②コレクション展鑑賞サポーター活動
		■③(1)職業体験(特別支援学校生)の受入れ	実施	実施	館内清掃業務の職業体験として特別支援学校生2名の受け入れを行いました。
		■③(2)職業体験(中学生、高校生)の受入れ	実施	未実施	コロナ禍で職業体験の依頼がありませんでした。
<p>自己評価</p> <p>(1-①横浜市こどもの美術展) 【成果】 外出規制のない夏休みとして、昨年度(1974名)を大きく上回る出品・来場者があり、子どもがリアルな環境で芸術や社会に関わり、多様な体験を得られる機会を提供する重要性が感じられました。初開催した「こどものためのコレクション展」では、来場者の関心を引く作品構成や、自発的に作品に向きあうきっかけとなる鑑賞カード、参加型コーナーを設けるなど、様々な工夫を凝らし好評を得ました。自由参加ワークショップは、参加者が制作物を飾れるスペースを設け、会場の賑わいや他者と作品を鑑賞しあう機会を創出しました。また、10～20代の若い世代を中心とするボランティアやインターンの学び・交流の場を提供できたことは大変有意義でした。 【課題】 感染症対策のため規模縮小での開催を続けてきましたが、感染拡大状況や社会通念等を考慮しながら、次回、安全に滞りなく開催できる内容を3月中に決定しなければならない難しさがあります。</p> <p>(1-③ハマキッズ・アートクラブ) 【成果】 全講座に多くの応募があり、なるべく多くの子どもたちが参加できるよう、感染対策に工夫をし、定員を超える参加に繋がりました。子どもたちが楽しみながら自分の思いを形にできるよう、講座の進行や声かけの対応を行い、高い満足度を得ることができました。 【課題】 多文化共生にむけて英語での対応が可能な講座を開催しましたが、対象者に広報が行き渡らず、多様な参加者に繋げることができませんでした。多文化共生は受け皿だけでなく、アクセス方法も検討していきたいです。</p> <p>【成果】 若手アーティスト支援のみならず、今後の施設利用層の拡大や展示手法の多様化への対応ノウハウの構築など、可能性が大きい試みであることを確信しました。 【課題】 当館の経常的な利用率が高いこともあり、当事業への参画を希望する若手アーティストの意向をすべて叶えると言う形ではないため、実現にはマッチングのタイミングに負う部分が大いなのが現状です。</p> <p>(3-①大学生・大学院生インターンの受入れ) 【成果】 ①「子ども向け事業企画・運営事業」では「横浜市こどもの美術展」での運営補助や1月のワークショップ企画・運営をおこない、事業を通じた研修の成果を企画に反映させ実施ができました。②「コレクション管理補助業務」では、IPM(総合的有害生物管理)自主点検の体験、作品に関する基礎的作業や修復作業の見学・記録撮影等に携わり、学芸的に有意義な内容を提供しました。特にHPでの収蔵作品サムネイルの新規公開に活動が大きく寄与しました。③「事業アーカイブ構築補助業務」では、ホームページ「事業アーカイブ」公開データの準備を進め、年間118件の事業情報の公開が実現できました。また、展覧会アルバムや資料の整理も進めました。レポートやヒアリングで進捗やニーズの把握につとめ、充実した活動をおこないました。 (3-②ボランティア活動) 市民が主体的に当館の自主事業に関与することで、自己発現の場の提供、市民間の交流を促進することが出来たと考えます。特に、初めて試みたコレクション展鑑賞サポーターと来場者の「語らいの場」として設けた「おしゃべりステーション」に今後への可能性を感じました。 【課題】 「子ども向け事業」の内、インターンが企画するワークショップでは、アウトリーチ先の条件に沿った内容を短時間で組み立てる必要があり、難しい場面もありました。「コレクション管理補助」「事業アーカイブ構築補助」は担当職員のみならず、事業・管理を問わず施設全体としての取組と拡げていく必要があります。</p>					

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
1 文化活動のための施設提供及び市民の文化芸術活動の支援(貸館事業)(使命1)	ご利用団体の活動をサポートする取組	①お客さま台帳 ■(1)お客さま台帳の作成に向けた検討	実施	実施	実施	台帳のフォームを完成させ、当館移転後の過去9年分のお客様データを入力しました。	<p>【成果】 「お客さま台帳」については、データ登録が完了しました。今後におけるよりスムーズな対応への活用を目指します。施設利用促進については、コロナ禍の影響を受けその活動自体を自粛しました。その一方で、状況の変化に伴って更新される、新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインを施設運営のベースに加え、その動向を遅滞なくホームページで周知したことに加え、利用団体への電話による直接案内を行うなどにより、ご利用者団体の運営における不安の払拭に努めました。</p> <p>【課題】 3年前に始まったコロナ禍において導入された様々な対策を、今後は「ウイズコロナ」という形に変容させていくと共に、その新たな時代への過程において、ご利用団体の求める活動形態に寄り添った「安心・安全」な施設運営のあり方を模索し確立していく必要があります。</p> <p>【評価できる点】 ・円滑な施設運営のための「お客さま台帳」のデータ登録完了を評価します。 ・時勢により変化する新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインやその動向をホームページで適時に周知をし、利用者へは架電にて案内するなど、きめ細やかに対応しながらコロナ禍でも安全に配慮した施設運営を行いました。 ・ホームページにおけるアーカイブの構築・公開を進め、「今日の作家展」「コレクション展」「こどもの美術展」の全件公開が完了したことを評価します。 ・コロナ禍での突発的な欠員対応などに苦慮された1年でしたが、臨機応変な人材配置により施設運営が継続された点を評価します。 ・地域連携事業は、近隣施設で構成される「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」において、近隣幼稚園の保護者を対象とした鑑賞の機会を提供するなど、基盤整備に努めました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・「お客さま台帳」データの活用方法を検討し、利用促進に繋げていくことを期待します。 ・アーカイブ情報や収蔵作品のデータベースの更新等を継続的に実施してください。また、情報公開について、市民への周知を推進してください。</p>	
		■(2)お客さま台帳入力フォーム作成	実施	実施				
		■(3)お客さま台帳の過去実績入力(3年分)	実施	実施				
		②アトリエの利用促進 ■(1)施設情報発信による施設情報周知	実施	実施	実施	動画及びHPやSNSを通じて施設の存在を周知しました。		
		■(2)ホームページでの空き室情報の公開	実施	実施	実施	随時更新を図り、現在の空き状況が分かるよう努めました。		
		□(3)アトリエ利用率	43%	63%	63%	前年度比20%アップを達成しました。 ※ただし、コロナ回復期による影響が大		
		■③附帯設備の充実	実施	実施	実施	新たに導入した備品はありませんが、現有の備品については、常にメンテナンスを図り不備が生じた場合は速やかな交換を行いました。		
		■④ご利用打合せと相談	実施	実施	実施	利用者の経験等を鑑みながら、きめ細やかな運営サポートを行い、利用者が安心して展覧会が開催できるよう支援しました。		
		⑤送迎車運行サービス ■(1)車椅子利用者等の利用にも配慮した無料の送迎車の走行	実施	実施	実施	月に一度開催する「送迎車運行会議」を基本に、随時当館の展覧会スケジュールに合わせた、きめ細かい運行サービスを実施しました。		
		■(2)展覧会に即した着実な運行とスケジュール周知	実施	実施	実施			
2 情報発信支援		■①本施設ホームページ運営、SNS運営	実施	実施	実施	全ての展覧会初日に会場風景を撮影し、ホームページ上に紹介しました。	<p>【成果】 ・国際交流団体や福祉施設等の異分野との連携糸口を模索するために、関連団体へのアプローチを始動し、交流が生まれました。 ・アーカイブの構築・公開は社会全体の貴重な情報財産です。インターン生の参画もあり、118件の過去事業情報を新規公開できました。</p> <p>【課題】 公開した情報の、「公開自体」を積極的に周知する必要があり、その手立てを検討する必要があります。</p>	
		□②「横浜画廊散歩」発行	7回	7回	7回	6月より毎月発行から隔月発行に変遷しました。		
		□③「アートヨコハマ」発行	3回	3回	3回			
		□④「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」発行	1回	1回	1回			
		■⑤多文化共生に向けて活動している団体への情報提供に向けた検討	実施	実施	実施	国際交流ラウンジへの英語版チラシの配布を試行		
		■⑥障がいのある方の文化芸術活動を支援している団体との情報交換に向けた検討	実施	実施	実施	宮崎町地域ケアプラザへの視察及び今後の連携に関する相談を行いました。		
3 新たな表現者、鑑賞者を迎える取組		■①U35 若手芸術家支援事業 ※I-3-2-①に記載	-	-	-		※I-3-2-①に記載	
		■②10人以下の団体および個人への貸出	実施	実施	実施			
2 組織的な施設運営(様式14)	1 必要人材の配置と職能	■①共同事業体各社から業務ごとに専門性の高い職員を適正に配置する。	実施	実施	実施	館長:1名、事業・運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:4名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:3名、施設管理担当:1名、警備チーフ:1名、警備担当:5名、清掃チーフ:1名、清掃担当:3名、常勤アルバイト:1名	<p>【成果】 事業・管理面とも提案書に則った、適切な人材配置ができ、確実な施設運営ができました。</p> <p>【課題】 コロナ感染者発生により、当日突発的に欠員が出た際の対応に苦慮した1年でした。</p>	
			実施	実施	実施			
	2 主要人材の能力担保		■①職員各々に応じたOJTについて年間を通じて実施する。 ■②MBO 制度による組織的な業務遂行 ■③専門職員研修 ■④人権研修 ※VI3に記載 ■⑤コンプライアンス研修 ■⑥個人情報保護法研修 ■⑦防災訓練 ■⑧AED取扱い研修未受講の新配属スタッフ等対象に実施	実施	実施	実施		<p>【成果】各部署でのミーティングや全体会議で、課題や取組について議論することで情報共有するほか、外部研修の内容を共有し、全スタッフの施設運営に対するスキルアップができました。</p> <p>【課題】 人事異動や有期雇用職員の期限に伴う人材の流動性が課題ですが、平素よりスタッフ間でのお客様対応等の情報共有や業務のローテーションで個々の経験値を高めることにより、スタッフのスキルの平準化を図り、常時高いレベルの利用者サービスを提供できる施設運営の保持に向け、引き続き取り組めます。</p>
				実施	実施	実施		
				実施	実施	実施		
				実施	実施	実施		
				実施	実施	実施	新配属職員配属時に実施。加えて、年1回全体研修を行う。	
				実施	実施	実施		
				実施	実施	実施	第1回目:館内設備巡回確認、第2回目:首都直下地震に関する動画視聴	
				実施	実施	実施		

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

		<ul style="list-style-type: none"> ■①運営チーム確認ミーティング □②職員全体ミーティング □③環境管理会議 □④送迎車運行スケジュール調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 週1回 月1回 月1回 月1回 	<ul style="list-style-type: none"> 実施 年間12回 年間12回 年間12回 		
3 施設全体の運営に対する アイデア・ノウハウの一層の 活用 (様式25)	1 アートを楽しむことができる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■①いりぐちギャラリー 企画展に合わせた展示内容の検討 	実施	実施	令和6年度に迎える、「開館60周年」に合わせての実施を検討しました。	コロナ禍において、実際に施設に対し誘客を増加させる事業については次年度以降への継続検討事項としてしていません。
		<ul style="list-style-type: none"> ■②美術図書読書コーナー設置検討 	実施	実施		
		<ul style="list-style-type: none"> ■③飲料自動販売機とお菓子やパンの自動販売機設置 	実施	実施		
	2 芸術文化に触れるきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> ■①美術団体の活動紹介 	実施	未着手	未着手(コロナ禍による)	<p>【成果】 各広報媒体に対し遅滞なく情報提供を行い、確実な掲載を実現しました。</p> <p>【課題】 コロナ禍において、各種展覧会を開催される利用者様にとっても、大々的に周知をし多くの鑑賞者を呼び込むことが躊躇される状況でした。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ■②テーマを設けたポスター等の掲出 	実施	実施	4階エレベーター前及びアトリエ周辺の壁面に設置	
		<ul style="list-style-type: none"> ■③ホームページ、YouTube、SNSでの情報発信 ※Ⅱ-1-2①に記載 	—	—		
		<ul style="list-style-type: none"> ■④PR TIMESへの情報発信、タウンニュース、ヨコハマ経済新聞等への情報提供 	実施	実施		
		<ul style="list-style-type: none"> ■⑤広報よこはま(西区版、中区版)への情報提供 	実施	実施		
		<ul style="list-style-type: none"> ■⑥画廊、美術施設の情報収集・発信(情報誌) 	実施	実施		
		<ul style="list-style-type: none"> ■⑦横浜の画廊、美術施設のホームページでの紹介 検討 	実施	未着手	未着手(コロナ禍による)	
		<ul style="list-style-type: none"> ■⑧横浜市の重要事業の告知 	実施	実施	「横浜市こどもの美術展」で「横浜市公共建築100周年事業」と連携し、事業の告知に務めました。	
	3 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ■①5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」※Ⅰ-1-3①に記載 	—	—		<p>【成果】 第4期指定管理期間においては、各種施設や団体との「連携事業」への注力を重視しており、その初年度に当たっては、意識的に当館が繋がりを求めている事をアプローチし、基盤整備に努めました。「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」については、単にイベントを開催する事ではなく当該地域の施設が常態的に連携を図る仕組みの提案行いました。また、近隣幼稚園の母親を対象とした「施設概要とコレクション」に関するレクチャーと鑑賞機会の提供を実現し、今後に向けた連携の継続を促しました。</p> <p>【課題】 連携を軸とした展開においては、相手方との理解度の共有が重要になるため、当館の考え方を丁寧に説明し、方向性の齟齬が生じないように進める必要があるため、事業の始動から時間を要するため、一朝一夕には成果が見えない事が挙げられます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ■②宮崎町親和会、伊勢山皇大神宮、成田山横浜別院との情報交換 	実施	実施	各所へは、チラシ配架や時候でのご挨拶や情報交換を行い、当館活動の周知に通年でご協力いただきました。	
		<ul style="list-style-type: none"> ■③アートなお散歩支援事業 関係づくり検討 ※Ⅰ-1-3②に記載 	—	—		
		<ul style="list-style-type: none"> ■④黄金町、若葉町との穏やかな連携 ※Ⅰ-1-3③に記載 	—	—		
<ul style="list-style-type: none"> ■⑤横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野との連携 		実施	実施	横浜美術館エデュケーター2名「ハマキッズ・アートクラブ」で研修受入。各種印刷物での相互の情報掲載。		

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ施設管理	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 保守管理業務 (使命5)	1 日常点検業務・定期点検業務	■業務の基準に即して実施。	定例実施	実施		【成果】 管理スタッフによる日常点検や運営スタッフによる巡回を通して、修繕箇所の発見や早期の対応を行い、施設の長寿命化及び館内サービスに影響の出ない施設運営に努めました。 【課題】 経年劣化等修繕の必要な箇所が今後一層増えてくると思われ、情報収集しつつ、対応を考えながら早期の発見や速やかな対応を行います。	【評価できる点】 ・日常点検や定期点検、巡回等を通じて適切な施設管理を実施しました。また、環境管理会議を新たに導入し、消毒手法の変更や大掃除などを行った結果、カビの抑制に繋がりました。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止策について、市からの通達に沿ったガイドラインを策定し、利用者や来館者、施設スタッフの安全確保を第一に運営を行いました。 【更なる取組を期待する点】 ・施設・設備の不具合箇所が発生した場合には、適切な小破修繕の実施を行うとともに、関係各所との情報共有を行う等、継続して施設の長寿命化に努め、引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。
		■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	実施	実施			
	2 効果的な小破修繕への取組	■全職員及び横浜市との情報の共有。緊急のものは早期に横浜市と協議。	実施	実施	情報共有のほか会議で取り上げるなど、施設管理に対する全職員の意識の向上に努めました。修繕に関する施設内での情報共有のほか、モニタリングや設備トラブル報告書を通して横浜市と情報共有をしました。		
		■全修繕履歴の年度毎のデータ化	実施	実施			
		■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	豊富な経験を有する共同事業体の専門職員を中心に、突発的な修繕を必要とされる場合でも速やかに対処しました。		
	3 備品等の適切な管理	■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対応	実施	実施			
■備品等は、常に良好な状態に保ち、管理します。 □年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告します。		実施	実施				
2 環境維持管理業務 (使命5)	1 IPMの手法による施設環境課題への対応	□共同事業体で環境管理会議を開催	月1回	月1回	3月については、紙面にて簡易開催となりました。	【成果】 環境管理会議を新たに導入し、環境関係の情報共有と協議をおこない、同会議を発端に年末にB1バックヤードの大掃除を実施するなど環境改善の一助となりました。また、昨年度から地下1階展示室パネル裏の消毒方法を変更したことが功を奏し、同スペースのカビの検出数が年度内減少のまま維持された他、全館の環境は改善傾向にあります。 【課題】 今年度は湿度の振れ幅が従前より少ないとはいえ、収蔵庫内の温湿度の安定は空調機器が変わらない限り依然難しく、美術作品に適した温湿度の維持はできていない状況です。IPM点検・管理を導入しているため、こまめな清掃やカビや虫等の早期発見はできていますが、毎年の作品全点確認は難しく、温湿度由来の問題発生は防除できているとは言えない状況下で作品の状態変化が懸念されます。	【成果】 環境管理会議を新たに導入し、環境関係の情報共有と協議をおこない、同会議を発端に年末にB1バックヤードの大掃除を実施するなど環境改善の一助となりました。また、昨年度から地下1階展示室パネル裏の消毒方法を変更したことが功を奏し、同スペースのカビの検出数が年度内減少のまま維持された他、全館の環境は改善傾向にあります。 【課題】 今年度は湿度の振れ幅が従前より少ないとはいえ、収蔵庫内の温湿度の安定は空調機器が変わらない限り依然難しく、美術作品に適した温湿度の維持はできていない状況です。IPM点検・管理を導入しているため、こまめな清掃やカビや虫等の早期発見はできていますが、毎年の作品全点確認は難しく、温湿度由来の問題発生は防除できているとは言えない状況下で作品の状態変化が懸念されます。
		□職員による温湿度データ確認、カビのサンプリング、目視確認	隔月に1回	隔月に1回			
		■職員による簡易消毒、清掃	随時	実施			
		□専門会社による全館調査	1回	1回			
		■収蔵庫の空調管理の実施	室温22℃(±3℃) 湿度53%(±3%)	実施	湿度については夏期は超過、冬期は未達の傾向が変わらずありますが、その幅は従前よりは縮小の傾向があります。		
	□専門会社による地下1階展示室パネル裏消毒	1回	1回	昨年度に引き続き、薬剤の24時間ミスト噴霧形式で実施し、高い効果が確認されました。			
2 全スタッフによる目配り	■展示室壁面の塗装、展示室可動パネルの稼働状況チェック	随時	実施	施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できるような管理を実施しました。展示室の壁面は、当館スタッフによるリタッチを実施し、経費節減しつつ展示壁をより良い状態に保つよう努めました。			
	■展示室貸出備品の点検・整備	随時	実施				
	■アトリエ貸出附帯設備の点検・整備	随時	実施				
3 保安警備業務 (使命6)	1 警備	■8:30～18:30までは警備担当による警備、18:30～翌8:30までは機械警備	実施	実施		【成果】 事故防止体制・緊急時のための方針と対策として警備専門スタッフ及び機械警備による警備体制を敷くとともに、日頃から連絡・報告体制を整えました。新型コロナウイルス感染拡大防止策については、横浜市からの通達に沿ったガイドラインを策定し、ご利用者や来館者、施設スタッフの安全確保を第一に運営を行いました。 【課題】 今後は、「ウイズコロナ」へ向けた施設運営のあり方を確立し、それに沿った利用者様への対応を構築する事が求められます。	【成果】 事故防止体制・緊急時のための方針と対策として警備専門スタッフ及び機械警備による警備体制を敷くとともに、日頃から連絡・報告体制を整えました。新型コロナウイルス感染拡大防止策については、横浜市からの通達に沿ったガイドラインを策定し、ご利用者や来館者、施設スタッフの安全確保を第一に運営を行いました。 【課題】 今後は、「ウイズコロナ」へ向けた施設運営のあり方を確立し、それに沿った利用者様への対応を構築する事が求められます。
		■異常感知した場合、専門業者が急行し必要に応じて所轄警察署に連絡し緊急対応を要請するとともに館長等に状況や対処方法を報告。	実施	実施			
	2 怪我・急病	■異常発生時の報を受け次第、スタッフが現場へ急行、対応。	実施	実施			
		■事故発生時、市を含む関係者に速やかに報告し、必要な対応と原因調査にあたる。	実施	実施			
		■救急要請対応についてスタッフ研修を実施	実施	実施	年2回の防災訓練時に意識共有を図りました。		
		■AEDの完備、AED取扱い研修実施	実施	実施			
4 防火・防災等 (使命5)	1 防火・防災対策	■共同事業体で自衛消防隊を組織	実施	実施	シフト体制であっても瞬時に災害に対処できるように、出勤者の記名ボードに、災害時の役割を毎日明示することで、常に各自の役割が分かる工夫をしています。	【成果】 消防訓練では、シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを引き続き行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、お客様の安全はもちろんのこと、お客様を受け入れる側である我々職員も、シフトが組めなくなるような事態を避けるべく、各自の危機管理能力を高め、感染防止に努めました。 【課題】 今年度は、シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを引き続き行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、お客様の安全はもちろんのこと、お客様を受け入れる側である我々職員も、シフトが組めなくなるような事態を避けるべく、各自の危機管理能力を高め、感染防止に努めました。	【成果】 消防訓練では、シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを引き続き行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、お客様の安全はもちろんのこと、お客様を受け入れる側である我々職員も、シフトが組めなくなるような事態を避けるべく、各自の危機管理能力を高め、感染防止に努めました。 【課題】 今年度は、シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを引き続き行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、お客様の安全はもちろんのこと、お客様を受け入れる側である我々職員も、シフトが組めなくなるような事態を避けるべく、各自の危機管理能力を高め、感染防止に努めました。
		□年2回防災訓練を実施する。	2回	2回	消防・防災訓練を実施したほか、地震発生時には館内点検を実施しました。また新型コロナウイルス感染症拡大に対してはガイドラインに準拠した対応を行いました。新型コロナウイルス感染症については、横浜市との協議のうえで、対策を実施しました。		
		■日頃からの危機意識の向上	実施	実施			
		■感染症対策のため、日常的な清掃を徹底、手洗い等について喚起	実施	実施			

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

5 緊急時の対応 (使命5)	1	緊急時(災害発生時)の連絡体制・役割分担	■全職員に対し緊急時の連絡体制と役割分担についての周知を徹底する。	実施	実施	今回直面しているコロナ禍への対応については、社会活動とのバランスが柔軟化し峠を越えた感があります。しかしながら、今後同様の災禍が起きた場合、複数名の罹患者が同時に出るような場合のセーフティネットを単館のみでなく、複数館で構築する必要性を実感しています。
	2	災害発生時の取組	■横浜市において災害対策本部等が設置された場合は、その指示に従うとともに、横浜市と協力し災害対応に協力します。 ■災害が発生した場合は、お客さまの安全確保を最優先に対応します。災害の内容や規模に応じて、また横浜市の方針に基づき、すみやかに「広域避難場所」や「帰宅困難者一時滞在施設」に誘導できるよう、職員に対応について周知。	実施	実施	
6 その他施設管理に関する事項	1	施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	<input type="checkbox"/> 電気主任技術者(3種)を1名選任する。	実施	実施	【成果】 【課題】
			<input type="checkbox"/> 建築物環境衛生管理技術者を1名選任する。	実施	実施	
			<input type="checkbox"/> 甲種防火管理者を1名選任する。	実施	実施	

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 指定管理料のみに依存しない収入構造(様式23)	1 利用料金収入の増加	<input type="checkbox"/> 展示室・アトリエの利用料金収入	1,118万円	1,215万円	新型コロナウイルス感染症のため、それ以前の水準ではありませんが、昨年度に比べる回復傾向にあると共に、当初の目標額を上回りました。	【成果】 新型コロナウイルス感染症拡大による利用率の減少は、昨年度に比べれば持ち直したと言えます。そのため、収入は昨年度に比べると改善し、目標金額を上回りました。 今回、初挑戦した収蔵作品修復へのクラウドファンディングは、目標額を大きく上回る成果を得ました。 【課題】 新型コロナウイルス感染症が収束しない限り、コロナ禍以前の利用率収入を得ることは困難です。 自主事業への助成金獲得については、次年度以降、アプローチの仕方を再検討する必要性を痛感しています。	【評価できる点】 ・コロナ禍での利用率減少の中、利用料金収入が目標金額を上回ったことを評価します。 ・クラウドファンディングを活用した収蔵作品修復事業では、目標金額を大きく上回り、2 作品の修復を充分におこなうことが出来る成果を上げました 【更なる取組を期待する点】 ・今後も文化芸術の拠点として、質の高い自主事業展開を持続するために、収支バランスにも配慮した企画立案及び管理業務を継続してください。
		<input type="checkbox"/> 駐車場の利用料金収入	100万円	169万円	施設利用率の回復傾向に伴い大きく増収となりました。		
	2 「大人のためのアトリエ講座」において、講座直接経費を受講料収入で賄う方を検討	講座直接経費の受益者負担率向上に向けた検討を行う。	実施	実施	全体を通し定員割れを防いだ結果、受益者負担率向上がなされました。		
	3 その他収入等の増加	<input type="checkbox"/> 印刷代収入	4万円	3万円			
		<input type="checkbox"/> 自動販売機手数料収入	16万円	15万円	館内では水分補給以外原則飲食禁止を見越した目標額は、ほぼ達成できました。		
		<input type="checkbox"/> 助成金収入	50万円	0円	残念ながら、申請した2件の助成金獲得はなりませんでした。		
<input type="checkbox"/> 広告料収入や協賛金収入		60万円	76万円	継続した広告スペースを継続して確保すると共に、新規枠への営業も奏功し増収を図りました。			
	<input type="checkbox"/> 寄付金受入れ	120万円	176万円	初挑戦となった、クラウドファンディング分が171万円です。			
2 経費削減等効率的運営の努力(様式23)	1 事業広報手段の転換	■オンライン印刷やインターネット配信、SNS 等を効果的かつ効率よく活用することで、デザイン費・印刷費・郵送料などの節減。	実施	実施	前例踏襲ではなく、常に全職員がコスト意識を持ち、経費削減に努めています。	【成果】 各職員が、公費を預かって施設運営に従事しているという意識を持ち、積極的に経費削減に努める姿勢を有していると考えます。 【課題】 既に、経費削減については一定レベルまで、突き詰めていると考えます。更に、コロナ化や光熱水費高騰の影響を受ける事で、これ以上の削減については限界近くに達していると思われる。	
	2 発注や事務の工夫、コスト意識	■横浜市に準じた当財団の経理規程に基づき、入札や見積合せにより経費を節減。 ■職員が常にコスト意識を持ち、広報印刷物の有り方の工夫、事務用品の再利用等の徹底。	実施	実施			
	3 施設・設備管理の工夫	■施設管理や修繕の経費、エネルギー使用状況等を日々確認し、経費節減・支出抑制を行う。	実施	実施			
V 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
	1 日報、月報の作成・管理	<input type="checkbox"/> 業務日報の作成	毎日	実施	全ての項目において、経常化を行い目標クリアを達成しています。	【成果】 シフト勤務による運営では、これらの情報が日々しっかり付けられる事により、全体を俯瞰する事が出来る状態を保つことが可能となり、安定運営に繋がっています。 【課題】 繁忙期においては、現場を動かす業務と書類作成に関わる事務処理業務が重なる事が、職員負担増となる事があります。出来る限り、先手を打った対応を図るよう引き続き心掛けていきます。	
		<input type="checkbox"/> 管理運営月報・完了確認書を作成し、モニタリングにおいて報告	毎月	実施			
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	<input type="checkbox"/> 事業計画書・事業報告書の作成	提出期限まで	実施			
	3 業務評価の実施	<input type="checkbox"/> 自己評価(仮決算含む)	提出期限まで	実施			
VI その他	選定要項	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
	1 個人情報保護についての取組	■個人情報の保護に関する法令等を遵守し、個人情報を適正に取り扱う。	実施	実施	個人情報は施錠しての保管やパスワード等、規定やマニュアル等に基づいた取り扱いを行いました。コンプライアンス委員会を中心に研修や情報共有を実施しました。	【成果】 研修やミーティングを通じてコンプライアンスの取組や、危機管理についての知識や意識を共有し、職員全員で取り組むことができました。 【課題】 今年度は、期中において個人情報が記載されている郵便物の誤送付が1件発生してしまいました。当該業務の流れ見直し再発防止に努めたと共に、今後もコンプライアンスや危機管理に継続的に取り組めます。 指定管理者事務局本部では、毎月1回コンプライアンス委員会を開き、コンプライアンスに関する具体の事例について検討しました。今後も継続してその検討内容を全スタッフに共有することで、日常の業務の危機管理に備えます。	【更なる取組を期待する点】 個人情報の取扱については、全スタッフで共有し徹底を図ってください。
		<input type="checkbox"/> 職員向けに個人情報保護に関する研修を年1回実施する。	1回	実施			
		■個人情報の取り扱いの規定及びマニュアル等に基づき適切に取り扱う。	実施	実施			
	2 情報公開についての取組	■横浜市の情報の公開に関する要綱や規定等に準拠して作成した当財団の「情報公開規程」に従って、公正で透明性の高い運営を担保。	実施	実施			
		■必要に応じて当財団の顧問弁護士に相談できる体制をとる。	実施	実施			
	3 人権尊重についての取組	<input type="checkbox"/> 人権研修を年1回実施し、職員一人一人が人権尊重を実践するよう取り組む。	1回	1回	研修への参加や事例の共有を通じて、人権に配慮した運営や接遇を実施しました。		

令和4年度 横浜市民ギャラリー 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

1 市の重要政策課題への対応 (様式26)	4 環境への配慮に関する取組	■飲料自動販売機のペットボトル飲料を、可能な限り缶飲料に切り替える。	実施	実施	全職員が環境への負荷の低減を意識し、業務に支障のない範囲で省エネルギー化、省資源化に努めました。またデマンド監視装置を活用し、効率的な省エネを実現しました。
		■毎月のゴミ排出量の増減を確認し、削減や分別に関して掲示によりスタッフへの意識づけを実施。講座での物品の再利用等の工夫の実施	実施	実施	
		■産業廃棄物は法令に則って適切に廃棄。	実施	実施	
		■電気、ガス、水道の使用量を記録し、過年度同時期との比較・分析を行い、削減に努める。	実施	実施	
		■印刷物製作にあたり、カーボンオフセットを活用。	実施	実施	
	5 障害者差別解消	■来館者の立場にたった日頃の確認の実施。課題が見つかったときは素早く対応を実施。	実施	実施	
		■職業訓練の受入を通じてスタッフが障がい者差別解消の理解を深める機会とする。	実施	実施	
■スタッフが適切な行動をとれるよう、継続的な啓発の実施。		実施	実施		
6 男女共同参画	■男性・女性の別なくスタッフが活躍でき、かつライフステージに応じた“多様な働き方”に対応できる職場づくり	実施	実施		
	■個人が能力を最大限に発揮し、多様な人材が活躍することにより生産性が上がる活気ある職場づくり	実施	実施		
7 市内中小企業優先発注についての取組	■「横浜市中小企業振興基本条例」を踏まえ、可能な限り市内中小業者への発注に努める。	実施	実施	業務に支障がない限り、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」での登録業者に委託・発注しました。複数の振込口座を持つ相手先には横浜市内に本支店を持つ口座を優先的に使用しました。	
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償保険、動産総合保険、レジャー・サービス施設費用保険へ加入	実施	実施	
	2 関係法令等の順守	■業務を遂行する上での、定められた関連法規等の遵守	実施	実施	
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故に繋がる可能性のある不具合時は即日報告とし、随時共有	実施	実施	

【成果】
【課題】

評価	
自己評価	行政評価
<p>第4期の初年度となる令和4年度も、これまでの経験やノウハウを活かしながら、「新・今日の作家展」、「横浜市こどもの美術展」、「コレクション展」を中心とした展覧会及び幅広い市民を対象とした講座等の自主事業について、着実な運営を行いました。第3期から開始した地域に根差した他施設との連携事業や若手作家支援事業については、それぞれに目標に即した企画を実現しました。</p> <p>また初挑戦した「クラウドファンディングによる横浜市民ギャラリー収蔵作品修復プロジェクト」では、目標を大きく上回る寄附を頂戴することができ、修復した作品2点をコレクション展で市民の皆さまにお披露目することができました。</p> <p>貸館事業や施設管理についても適切な感染症対策を講じ、コロナ禍だからこそ望まれている利用者の文化活動の実現をサポートする運営を行いました。</p> <p>貸館事業においては、細やかで丁寧な対応を通じて市民の皆さんの文化活動を支えることができました。展覧会を開催する人、鑑賞する人、作品を創る人、体験する人、すべての人にとって身近でありながら、晴れの場であり、人と人が交流する喜びを生む空間であるよう運営を行いました。また、市内の多くの美術施設の活動を発信することでその活動を支援し、文化活動に携わる人の増加に寄与しました。</p> <p>自主事業では、同時代に活動する作家の作品に触れ楽しむ、心豊かな時間を提供するとともに、横浜の美術史を継承した文化醸成の一翼を担い、その歴史を未来へ繋ぐことができたと考えます。また、開催される多彩な展覧会に気軽に訪れることができる場として、地域に根差して活動を展開する団体(町内会、公共施設、画廊、創造界隈拠点、神社仏閣、保育園等)と分野を超えて繋がり、人との出会いと多様な価値観に触れる機会を提供できました。</p> <p>また、収蔵作品を積極的に活用し、「コレクション展」を核に、各種事業を通じ広く発信し、美術への関心を喚起する機会</p>	<p>・年間を通し、新型コロナウイルス感染症の影響に対応しながら着実に事業を実施し、市民の方へ文化芸術の鑑賞機会の場を安定して提供した点を評価します。</p> <p>・コロナ禍以前の状況に戻りつつある中、設置目的を効果的に達成できるよう状況に合わせて実施可能な方法を検討しながら、利用者に文化芸術に触れる機会を引き続き提供してください。</p> <p>・収蔵作品の状況確認や、データベースの情報更新、施設内の小破修繕等を適切に進めることを期待します。</p> <p>・近隣施設との連携事業についても継続的に取り組み、実績の評価・検証・改善を行いながら、今後の発展的な取り組みを進め、市民ギャラリーの事業の幅が広がることを期待します。</p>

を創出することができました。この収蔵作品を次世代へ継承するため、収蔵作品の状況及び修復の必要性や、収蔵庫の状況改善などについて、所管局である文化観光局と緊密に情報共有を行い、協働して取り組みました。

家庭、学校以外の「第3の場所」で体験する文化活動を通じて、子どもたちの自由な発想と豊かな表現を育み、その健やかな成長を応援し、子どもたちが生涯にわたって芸術文化に親しむきっかけを提供しました。学生インターンやボランティアを受け入れ、アートにかかわる就業を目指す若い人たちに機会を提供するとともに、特別支援学校生への職業体験の場の提供等を通じ、障がいのある子どもたちへアプローチすることができました。

当館施設は、築35年(昭和62年・1987年竣工)を超えた建物を改修して利用しています。そのため、特に施設の長寿命化を図るための予防的修繕及び収蔵庫の環境改善が重要です。建物管理を専門とし文化施設の施設運営に豊富な経験とノウハウを持つ共同事業体として、専門的な知見から常に状況を把握して予防的修繕や維持管理を行うとともに、長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画については横浜市に情報提供を行いながら、協働して取り組みました。快適な施設環境の提供とお客さまの安全を第一とした運営により、その活動を支え、多くの皆さんに親しまれる施設として持続可能性を高めることができました。

横浜市と綿密な情報共有と連携をとり、横浜市及び美術業界や業種別のガイドラインを踏まえ、衛生管理や対策を徹底し、情報共有に努め、迅速に対応することで、市民の皆さんの文化芸術活動の基盤としての役割を果たしました。

- 1 自主事業企画時および開催時の対策の徹底
- 2 スタッフによる衛生管理の徹底
- 3 施設をご利用のお客さまへの衛生管理徹底のお願い
- 4 収支バランスを注視した、事業内容や運営等の柔軟な見直し
- 5 ご利用のお客さまや来場されるお客さま、作家・講師等との関係性の維持について、滞りなく実施できました。